

α Mプロジェクト2018

絵と、 Painting and ...

キュレーター：蔵屋美香（東京国立近代美術館 企画課長）

「絵と、」 蔵屋美香

今年の連続企画は絵画を取り上げます。これはギャラリーを運営する武蔵野美術大学からのリクエストです。お受けするかどうか迷いました。絵画はとても好きですが、わたし自身は近ごろ絵画をどう考えてよいのかわからなくなっているからです。個々の作品や作家によいと思うものはあっても、ムーヴメントの盛り上がりやメディアムとしての新しい可能性を感じることは、特に日本国内について難しくなっていると思っています。

こうした気分はわたしの場合、はっきりと3.11以後に強くなったものです。震災から7年経ちましたが、この間社会では、異なる意見の排除や経済格差の拡大が無視できないものとなり、政権や国際関係のありようも大きく変化しました。

いま仮に、これらのアフターマス(余波)も含めてカッコ付きの「震災」と呼んでみることにします。この「震災」に呼応して、日本の美術界では社会に対して率直に発言する作品が目立つようになりました。その際、写真や映像、プロジェクト型の作品などは、メディアムがもともと持つ現実へのコミットの度合いの高さから、かなり率直な反応を示してきたように思います。しかし絵画は、絵具やキャンバスという物質のレベルはさておき、原理的には現実との関わりを持たずに色や形を組み立てることができます。もちろん政治的テーマを直截的に描くこともできますが、関東大震災後の1920-40年代、戦後の1950-60年代にも試みられたこのやり方は、しばしば物事を単純化し、プロパガンダ化する危険を伴います。

絵画が現実に関わるよりよい方法とは。

あまりにベタな問いですが、この疑問を明るみに出し、真正面から扱わない限り、わたしのもやもやは晴れそうもありません。ついでに、「絵画」という一種の業界用語を使うと、結局問題が美術の枠内に収まってしまいそうなので、タイトルはあえて「絵」という言葉を使いました。

今回選んだペインターは、いずれも「絵と」現実を絵画ならではの方法で切り結ぼうとしています。「絵と」社会的出来事、「絵と」記号、「絵と」感覚など、「絵と、」の後に入る要素はさまざまです。この企画がわたしの、そして同じような疑問を抱えた人たちの、もやもやはらす力強いきっかけになればと願っています。

会期

会期1：2018年4月7日(土)～6月2日(土)：五月女哲平

会期2：2018年6月16日(土)～8月10日(金)：藤城嘘

会期3：2018年9月1日(土)～10月27日(土)：村瀬恭子

会期4：2018年11月10日(土)～2019年1月12日(土)(冬期休廊12/23～1/7)：千葉正也

会期5：2019年1月26日(土)～3月23日(土)：中村一美

会場：gallery α M ギャラリーアルファエム

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-2-11アガタ竹澤ビルB1F
tel:03-5829-9109 fax:03-5829-9166 日・月・祝休 11:00～19:00
<http://gallery-alpha.com>

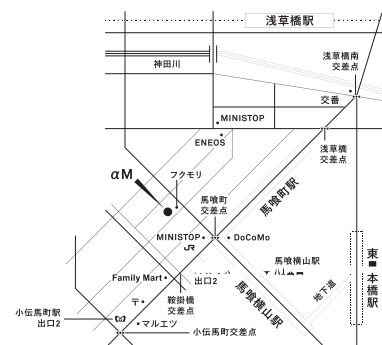
gallery α Mは、質の高い表現と可能性を有するアーティストと、斬新な価値を発信できるキュレーターの活動の場として、武蔵野美術大学が運営するノンプロフィットギャラリーです
主催：武蔵野美術大学 運営：武蔵野美術大学 α Mプロジェクト運営委員会
デザイン：山田拓矢

■本展に関するお問い合わせは下記までお願いいたします■

gallery α M ギャラリーアルファエム
保谷香織(ほうや・かおり) hoya@musabi.ac.jp
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-2-11アガタ竹澤ビルB1F
tel:03-5829-9109 fax:03-5829-9166

α M2018 ゲストキュレーター プロフィール

●蔵屋美香 (くらや・みか) 東京国立近代美術館企画課長
千葉生まれ。千葉大学大学院修了。おもな展覧会に2017-2018年「没後40年 熊谷守一 生きるよるこび」(東京国立近代美術館)、2014-15年「高松次郎ミステリーズ」(保坂健二郎、榊田倫広と共同キュレーション)、2014年「泥とジェリー」(東京国立近代美術館)、2013年「第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館キュレーション」(アーティスト：田中功起、特別表彰)、2011-12年「ぬぐ絵画—日本のモード 1880-1945」(東京国立近代美術館、第24回倫雅美術奨励賞)、2009年「ビデオを待ちながら—映像、60年代から今日へ」(東京国立近代美術館、三輪健仁と共同キュレーション)、など。おもな論考に「麗子はどこにいる?—岸田劉生 1914-1918の肖像画」など。



交通アクセス
都営新宿線[馬喰横山] A1出口より徒歩2分
JR横須賀線・総武快速線[馬喰町]西口2番出口より徒歩2分
日比谷線[小伝馬町]2、4番出口より徒歩6分
都営浅草線[東日本橋]より徒歩6分

α M2018 作家プロフィール (会期順)

●五月女哲平 (そうとめ・てっぺい)

1980年栃木県生まれ。2005年東京造形大学美術学部絵画科卒業。主な個展に2017年「犠牲の色、積層の絵画」(青山目黒、東京)、2014年「記号ではなく、もちろん石でもなく」(青山目黒、東京)、2011年「猫と土星」(小山市車屋美術館、栃木県/青山目黒、東京)、2008年「箱の中の光について」(Mont-Blanc銀座、東京)など。主なグループ展に2017年「Post-Formalist Painting」(statements、東京)、2017年「裏声で歌へ」[企画:遠藤水城](小山市立車屋美術館、栃木)、2016年「囚われ、脱獄、囚われ、脱獄」(駒込倉庫、東京)、2015年「引込線 2015」(旧所沢市立第2学校給食センター、埼玉)、2014年「絵画の在りか」(東京オペラシティアートギャラリー、東京)、2013年「マンハッタン太陽」(栃木県立美術館、栃木)、2013年「ダイ・チュウ・ショー」(府中市美術館、東京)、2012年「VOCA展 2012 現代美術の展望-新しい平面の作家たち」(上野の森美術館、東京)、2012年「リアル・ジャパネスク」国立国際美術館、大阪)など多数。



五月女哲平
「White.Black, Colors」
2015年 | キャンバスにアクリル
362x201cm



五月女哲平
「surface」
2017年 | 壁、キャンバスにアクリル
「Post-Formalist Painting」 statements、東京、2017



五月女哲平
「聞こえる」2017年
キャンバスにアクリル | 236x152cm
「裏声で歌へ」[企画:遠藤水城]
小山市立車屋美術館、栃木、2017

●藤城嘘 (ふじしろ・うそ)

1990年東京都生まれ。2015年日本大学芸術学部美術学科絵画コース卒業。2008年より、SNSを通してweb上で作品を発表する作家を集めた「ポストポップパズ」「カオス*ラウンジ」など、多数の集団展示企画活動を展開。主な個展に2017年「ダストポップ」(ゲンロン カオス*ラウンジ 五反田アトリエ)、2013年「芸術係数プレゼンツ藤城嘘個展『キャラクトロニカ』」(EARTH+GALLERY)、2010年「モストポダン」(ピリケンギャラリー)、「a white lie」(Hidari Zingaro) など。「カオス*ラウンジ」として主な展示に、2015~2017年「カオス*ラウンジ新芸術祭」(福島県いわき市)、2017年「Reborn Art Festival2017」(宮城県石巻市)、2016年「瀬戸内国際芸術祭2016」(香川県高松市女木島)、2014年「キャラクラッシュ!」(東京都文京区湯島)など多数。
<https://twitter.com/xlie>



藤城嘘
「DUST POP」
2017年 | キャンバスにアクリル



藤城嘘
「いわき勇魚取りグラフィティ」
2016年 | キャンバス布にアクリル



藤城嘘
「Time / Kirara / Charat」
2015年 | キャンバスにアクリル

●村瀬恭子 (むらせ・きょうこ)

1963年、岐阜県岐阜市に生まれる。86年、愛知県立芸術大学卒業、89年、同大学院修了。90年から96年まで、国立デュッセルドルフ芸術アカデミー(ドイツ)に在籍。93年には、コンラッド・クラベックよりマイスター・シューラー取得。主な個展に、「海の土の雲のかたち」(2013/タカ・イシイギャラリー)、「Fluttering far away」(2010/豊田市美術館)、「セミとミミズク」(2007/ヴァンジ刻庭園美術館)など。また、1996年以降、国内外の美術館にて開催されたグループ展にも多数参加してきた。



村瀬恭子
「Flowery Planet」
2009年 | Oil on cotton | 180x170cm



村瀬恭子
「窓辺(コウモリラン Pink)」2014年
Gouache, color pencil on paper | 40x30cm



村瀬恭子
「Swimmer」
2016年 | Oil on cotton | 140x150cm

●千葉正也 (ちば・まさや)

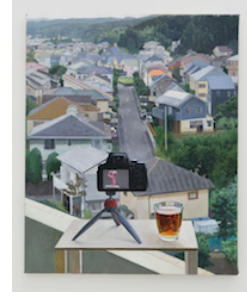
1980年神奈川県生まれ、同地在住。2005年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒。主な展覧会に、2017年「思い出をどうするかについて、ライトボックス風間接照明、八つ裂き光輪、キスしたい気持ち、家族の物語、相模川ストーンバーガー、わすれてメデューサ、50m先の要素などを用いて」(シュウゴアーツ、東京)、2017年「奥能登国際芸術祭」(2017年)、2016-2017年「Discordant Harmony」(広島市現代美術館、アート・ソング・センター、Kuandu Museum of Fine Artsを巡回)、2013年「六本木クロッシング 2013 展アウト・オブ・ダウト—来たるべき風景のために」(森美術館、東京)、2013年「Mono No Aware. Beauty of Things. Japanese Contemporary Art」(エルミタージュ美術館、ロシア)など多数。



千葉正也
「うわさ話」 2012年
キャンバスに油彩 | 165x145.2cm



千葉正也
「みんなで冒険しようぜ #3」 2017年
キャンバスに油彩 | 181.8x259cm



千葉正也
「ウーロン茶を飲む男」 2017年
キャンバスに油彩 | 65.2x53.7cm

●中村一美 (なかむら・かずみ)

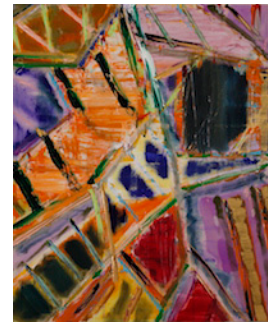
1956年千葉市生まれ。1984年東京藝術大学大学院美術研究科油画修了。主な個展に、2017年「Kazumi Nakamura」(Blum & Poe, ニューヨーク, USA)、2015年「Kazumi Nakamura」(Blum & Poe, ロスアンゼルス, USA)、2014年「中村一美個展」(カイカイキキギャラリー、東京)、「中村一美展」(国立新美術館、東京)、2003年個展(クムサンギャラリー、ソウル、大韓民国)、2002年「中村一美展」(いわき市立美術館、福島)、1999年「中村一美展」(セゾン現代美術館、長野)、1988年個展(南天子画廊、東京)など国内外で多数。主なグループ展に、2016年「JUXTAPOZ × SUPER FLAT」(Century Link Field Event Center, シアトル, USA)、「Imago Mundi」(プラット・インスティテュート、ブルックリン, USA)、「1995年「Japan Today」(レイジアナ美術館、デンマーク、他北歐巡回)、「日本の現代美術1985-1995」(東京都現代美術館、東京)、1993年「90年代の日本」(デュッセルドルフ市立美術館、ドイツ、他ローマ巡回)、1992-1993年「形象のはざまに」(東京国立近代美術館、東京、国立国際美術館、大阪)、1990-1991年「Japan Art Today-日本現代美術の多様展」(レイキャビク市立美術館、アイスランド、他北歐4か国巡回)、1989年「Japan'89」(アントワープ市立現代美術館、ベルギー、アントワープ)国内外で多数。



中村一美
「連差一破房XI(斜傾精神)」
2002年 | アクリル・綿布
400 x 900cm(3枚組) | 豊田市美術館蔵



中村一美
「連差一破房(茶とエメラルド)」
1994~95年 | 油彩・綿布
83.2x89.2cm



中村一美
「破庵31(糠馬喰山)」
2016年 | アクリル・綿布
162.1 x 130.5cm